

氏名： 滝澤 公子 (TAKIZAWA Kimiko)
所属： 教育事業部 (特設遺伝カウンセリングコース)
学位： 歯学博士 (1982)
職名： 講師
専門分野： 細胞生物学
E-mail： takizawa.kimiko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

人類遺伝学／サイエンスコミュニケーション／初等中等教育／遺伝カウンセリング
Human genetics / Science communication /
Elementary and secondary education in science / Genetic counseling

◆主要業績

- ・共著：バイオサイエンス 応用編 9 章「遺伝子診断・治療と DNA 鑑定」、バイオサイエンス研究会編、オーム社、p295-304、2007
- ・共著：出生前診断に対する看護及び歯科衛生士専門学校生の意識調査、日本保健科学学会誌、10 (3) 150-159、2007
- ・共著：アウトリーチにおけるサイエンスコミュニケーション、科学教育研究、31 (4)、2007
- ・単著 (ダリ語版)：Foods and Nutrition, Ochanomizu University International Exchange and Research Secretariat, 2007

◆研究内容 / Research Pursuits

- ・初等中等教育における遺伝学理解のための教材研究：
遺伝リテラシーの向上や、遺伝に関する事柄の理解を考えるサイエンスコミュニケーションの立場から、中学校における DNA 学習を研究。生命科学の先端的内容の理解導入のために、簡便な操作による DNA 抽出実験、大腸菌の形質転換実験等の開発を実施。中学校の理科教員の指導を助け、生徒のよりよい理解を図るための、モデル授業開発を行っている。さらに先端的生命科学に現れた倫理的問題を理解し、判断する力を養うために、ES 細胞・iPS 細胞の理解とクローニングを考えるモデル授業についても開発を行っている。
- ・出生前診断に対する看護及び歯科衛生士専門学校生の意識調査：
看護専門学校生と歯科衛生士専門学校生を対象として、出生前診断についてどの程度の知識と関心を持っているか、自分自身の問題として、出生前診断について詳しい内容説明を必要としているかなどについて調査研究を行っている。看護学校生は出生前診断に対し関心も高く、歯科衛生士学校生とは知識量に大きな隔りがあるが、どちらも出生前診断に対する解説に高い需要を示しており、知識の理解が判断に繋がらないこの問題の難しさが現れている。生殖医療や出生前診断は、倫理的に難しい判断を必要とし、その実施前後に、正確で心理的サポートに充分配慮した解説とカウンセリングが必須である。
- ・ Development of teaching materials for understanding of genetics on elementary and secondary education
- ・ Investigation of attitude to prenatal diagnosis of students at nursing school and dental hygienist school

◆教育内容 / Educational Pursuits

大学院人間文化創成科学研究科において基礎人類遺伝学特論、遺伝学実習（基礎）、遺伝学実習（応用）を担当。

Introduction of Human Genetics,
Cytogenetics,
Genetics Laboratory,
Advanced Genetics Laboratory

◆研究計画

- ・初等中等教育において、遺伝を理解することにつながる教材研究を継続し、ゲノム医学や遺伝子研究に関心と理解を持つ生徒・学生の育成をはかる。
- ・一般社会の遺伝子研究・治療の許容と関心について、調査研究をすすめ、東アジアにおける遺伝カウンセリング構築のために、欧米との比較などのデータ解析を継続する。

◆メッセージ

遺伝子研究やゲノム医学の発達に伴って、ヒトの遺伝情報の取り扱いにとくに配慮が必要となっています。高度な専門知識をわかりやすく解説し、心理社会的支援を行う必要性からも、遺伝カウンセリングの重要性が大きくクローズアップされています。日本にまだ新しいこの分野を切り拓こうとする人たちに期待しています。